Wren コンサーティーナ取り扱い説明書

ケルトの笛屋さん　畑山　智明 執筆

2020 年 8 月 18 日初稿、同 9 月 28 日更新

【商品の概要】

⚠本マニュアルは 2020 年前半まで販売されていた旧式モデルを対象としています。

Wren(レン…アイルランドに生息する鳥の名前)コンサーティーナはアイルランドの楽器店 McNeela 社が独自ブランドで販売している押し引き異音のアングロ・コンサーティーナです。

<以下は McNeela 社の商品紹介を翻訳したものです。>

・30 ボタン、C/G 調のアングロ・コンサーティーナ
・スチールのアコーディオン・リードが生み出す大きくて張りがある音色
・押し引きしやすい 8 枚の蛇腹
・初心者におさえやすい白くて大きなボタン
・Wheatstone / Lachenal 式のボタン配置
・他社の量産型アングロ・コンサーティーナより小さく伝統的なサイズ
・サイズ調節可能なハンド・ストラップで子供・大人どちらの手にもよく合う
・比較的軽量で、年齢を問わず扱いやすい
・良質なハードケース付き
・1133g

【ケルトの笛屋さん視点での商品紹介】

Wren コンサーティーナは低価格の入門モデルのコンサーティーナ※です。
コンサーティーナは製作に手間がかかり、リードの製作に高度な技術が必要なことから、非常に高価な楽器でした。しかし近年はアイルランド音楽の人気の高まりとともにコンサーティーナの需要が増えており、
学生や若年層でもコンサーティーナが楽しめるようにと、低価格帯のモデルが販売されるようになりました。

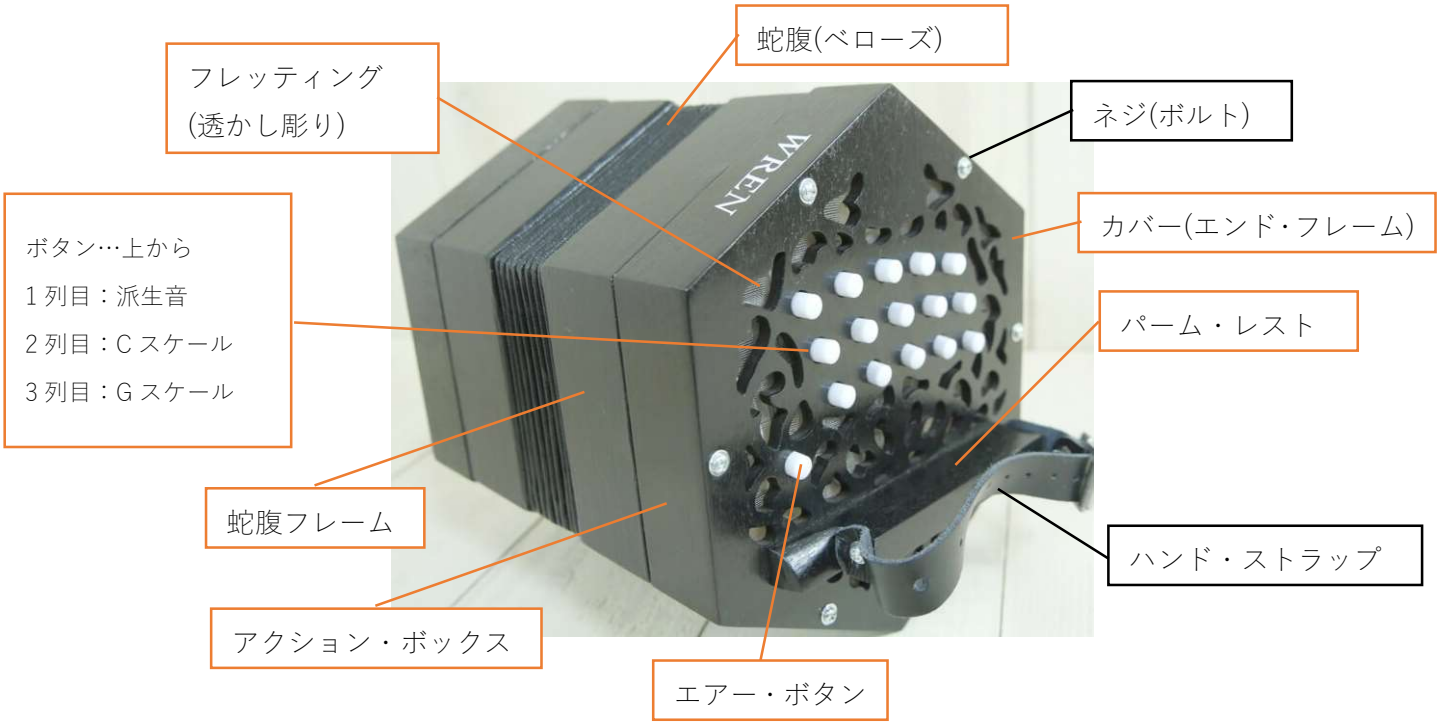
Wren を含む低価格のコンサーティーナは、世界中で普及しているアコーディオンと同じリードを用い、動作に関係する細かな機構や丁寧な塗装や装飾を排除して、蛇腹に紙を利用した簡素な作りにして原材料費を安くし、部品の調達や組み立てを中国で委託製造(OEM)することによって製作にかかる人件費も安くおさえています。McNeela 社では Wren はアイルランド製であるとしていますが、同様のデザインの楽器が中国でも販売されていることを確認したことから、おそらく組み立てまでを中国で行い、最後の検品や調整をアイルランドで行っているのではないかと思われます。

Wren は蛇腹や動作部分の素材の品質が低いために、それに関係する不具合が発生しやすい楽器です。
しかしこれは個体の問題ではなく構造に原因があるため、有償修理に出したり交換したりしても不具合は出続けますから、根本的な解決にはなりません。長く楽しむためには不具合を予防し、不具合が発生したときにご自分で対処することを学ぶ必要があります。不具合の予防や修理については 6 頁～をご覧ください。

※本マニュアルでは但し書きがないかぎりコンサーティーナとはアングロ・コンサーティーナを指します。

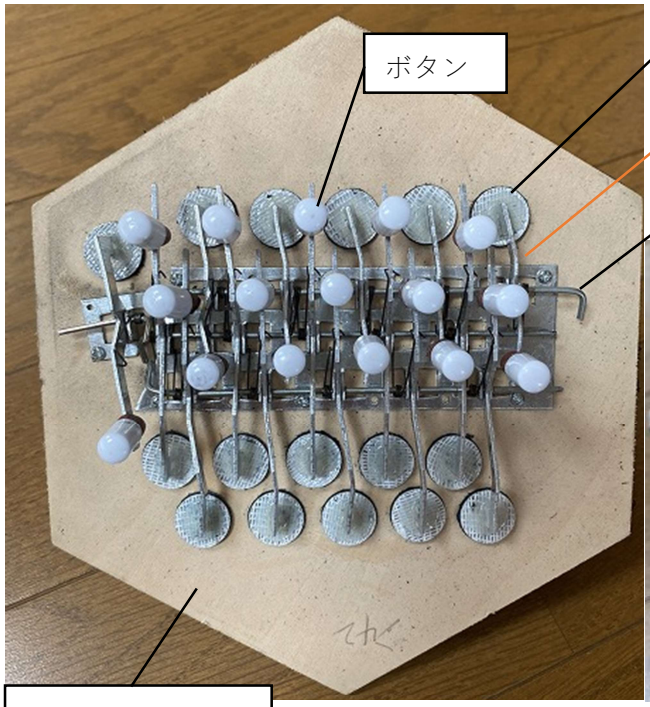
各部の名称　（2020 年前半までの旧式モデル）

【　外観　】



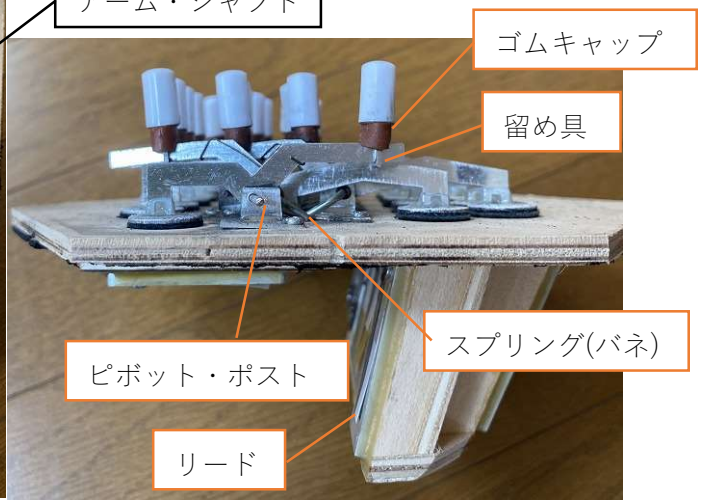
【アクション・ボックス内部】

上面



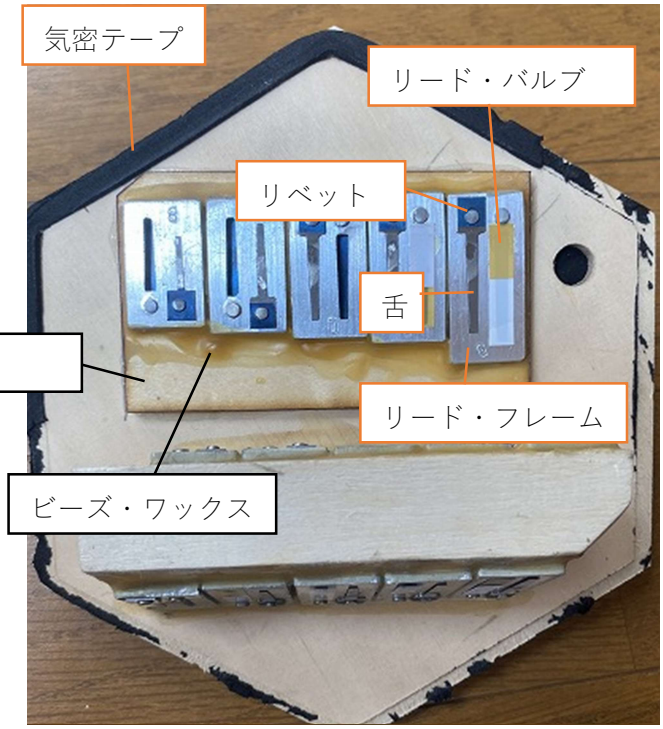
【カバーの裏側】

側面

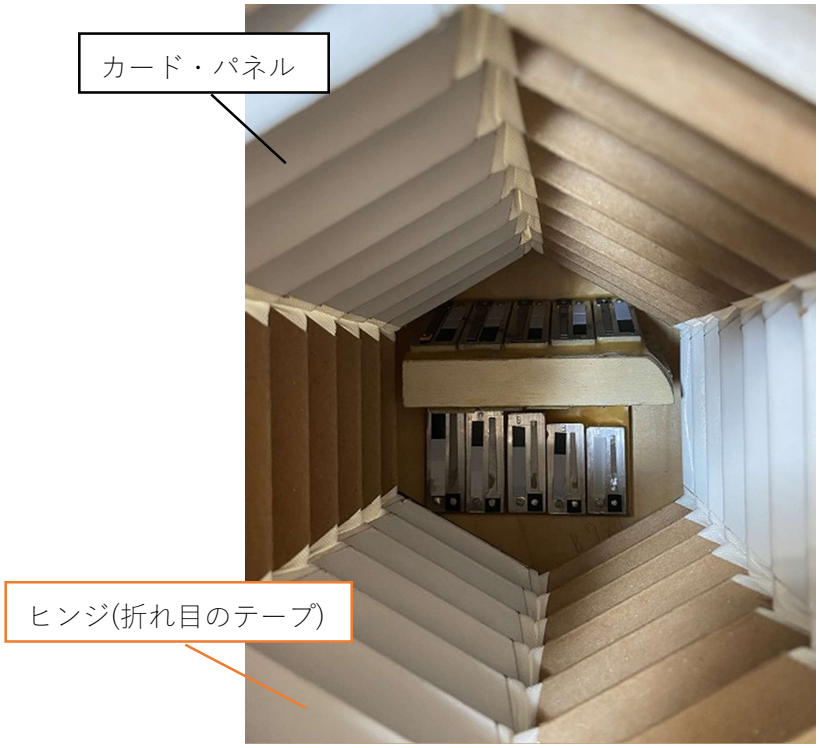


【リード・パン】

ボタン孔


気密テープ
リード・バルブ
リベット
舌
リード・パン
リード・フレーム
ビーズ・ワックス

【蛇腹】


カード・パネル
ヒンジ(折れ目のテープ)

トップ・スカイブ
ガセット

コンサーティーナが鳴るしくみ

コンサーティーナは鍵盤ハーモニカやアコーディオンと同じしくみの楽器で、空気の力によって金属製の短い舌のような発音部品である「リード」を振動させて演奏します。鍵盤ハーモニカは人間の吐く息を利用しますが、アコーディオンやコンサーティーナは空気の袋である「蛇腹」を縮めたり広げたりすることで空気の流れを作り出します。

アングロ・コンサーティーナには 1 つのボタンに対して蛇腹の押したときと引いたときに発音するリードが 1 枚ずつ、合計 2 枚あります。本製品では 30 のボタンがあるため、合計 60 枚のリードを備えています。それぞれのリードへの空気の通り道は通常は「パッド」という気密性のある円盤で閉じられており、蛇腹を操作しようとしても空気が通らないので、音が鳴りません。

音を鳴らすためには、蛇腹を伸び縮みさせて空気の流れを起こすのと同時にボタンを押す必要があります。ボタンを押すことで、ボタンの下に付いたレバー・アームが下がります。レバー・アームは軸運動によって下向きの動きが上向きの動きに変換されて、レバー・アームの先に付いたパッドが持ち上がります。パッドが持ち上がるとパッドで塞がれていた孔から空気がリードに流れ込んで、リードが音を鳴らすしくみです。

鍵盤式のアコーディオンや鍵盤ハーモニカにはピアノのように白鍵と黒鍵の鍵盤が並んでいますが、コンサーティーナは小さなスペースで広い音域が演奏できるように、狭い場所にたくさんのボタンが並ぶデザインになっています。

アングロ・コンサーティーナの音の並び

鍵盤式のアコーディオンや鍵盤ハーモニカでは一つの鍵盤に対して 1 つの音高しか鳴らすことができません。ですから広い音域を得ようとすると、サイズの大きな楽器になってしまいます。アングロ・コンサーティーナでは小さく軽く広い音域を得るために 2 つの工夫をしています。

1 つ目は左手と右手どちらにもボタンをつけて、両手でメロディが演奏できるようにしていることです。そのためアングロ・コンサーティーナではアコーディオンの左手のボタンのように伴奏のために低音や和音を奏でるボタンがありません。2 つ目は 1 つのボタンに対して 2 つの音を割りあてていることです。つまりハーモニカが吸ったときと吐いたときで違う音が鳴るように、1 つのボタンに対して向きが裏表の 2 枚のリードを付けて、蛇腹を押して縮めたときと引いて広げたときにそれぞれ異なる音高が鳴るようにしています。これを「押し引き異音」といいます。

ボタンの配列については、本製品には左右の面に 3 つの列で各 5 個のボタンが並んでいます。つまり 3 列 x 5 個が両面で合計 30 個のボタンがあり、それぞれ押し引きで異なる音が鳴るので、60 の音が鳴らせることになります（それに加えて右手側に 1 つのエアー・ボタンを備えています）。一方、押し引きで同じ音が鳴るコンサーティーナにはイングリッシュ・コンサーティーナやデュエット・コンサーティーナがあります。

アイルランド音楽では速いメロディを演奏する際の素早い音高の切り替えが可能なため主にアングロ式が使われています。※、

※McNeela のブログ“Anglo Concertina vs English Concertina”より
https://blog.mcneelamusic.com/2019/05/07/

音高の並びについては、3 つの列それぞれに決まった並びになっています。まず真ん中の列は、ピアノでいう白鍵の音、つまりハ長調(C メジャー)の音階です。そして一番手前の列は F♯を含んだト長調(G メジャー)の音階です。これで C と G の 2 つの音階が演奏できることから C/G 配列といい、アイルランド音楽を演奏するのには最も適しているとされています。アイルランド音楽では他にも B♭/F 配列や G/D 配列も使われることがあります。

しかしこれだけでは F♯以外の黒鍵を演奏することができませんから、それ以外の派生音(accidental)などを一番奥の列に割り当てています。この奥の列の音高はいろいろな組み合わせがあります。最も多い組み合わせは 19 世紀のメーカーの楽器の配列から名前をとったホイートストーン(Wheatstone)配列＝ラシェナル（Lachenal)配列とジェフリーズ(Jeffries)配列ですが、ほかにも様々な配列があり、オーダーメイドで音高を変えることもできます。なお、本製品はホイートストーン配列を採用しています。詳しくは付属の運指表をご覧ください。

演奏の姿勢

コンサーティーナは立奏でも座奏でも演奏ができますが、楽器を安定させるために、どちらかの太ももの上に楽器を置いて演奏する姿がよく見られます。決まった姿勢はないので、演奏動画を参考に弾きやすい姿勢を工夫してみてください。

楽器の向きは、エアー・ボタンがついている方が右手です。左右のハンド・ストラップに親指以外の 4 指を通して、左右それぞれの真ん中列の上のボタンから順番に人差し指、中指、薬指、小指を置いてください。右手の親指はエアー・ボタンを操作します。左手の親指は Wren など 30 ボタンのアングロ・コンサーティーナでは使いません（31 ボタンや 40 ボタンのアングロ・コンサーティーナではドローン・ボタンを押すのに使います)。

蛇腹の押し引きの操作は、アコーディオンのように左手だけで操作するのではなく両手で行うことができますが、太ももに載せて固定させるスタイルでは片手だけで蛇腹を操作します。

練習のしかた

音を出す前にエアー・ボタンを押しながら両手で蛇腹を軽く広げましょう。広がったら、左側の真ん中列の真ん中のボタンを薬指で押しながら、コンサーティーナを押して(蛇腹を縮めて)みてください。
これが C(ド)です。ここを基準に、運指表を頼りにして真ん中列の音階を練習して、頭に浮かんだ簡単な童謡を弾いてみましょう。最初は「押し引き異音」に慣れるのに精一杯だと思いますが、根気よく練習すれば音階を覚えられます。なお、ボタンを押さずに蛇腹を操作すると蛇腹を傷めるおそれがあるので、必ずいずれかのボタンを押した状態で蛇腹を操作するよう、ご注意ください。

コンサーティーナではどんな音楽でも奏でることができますが、多くの方はアイルランド音楽が演奏したくて購入するようです。アイルランド音楽では C 列と G 列、そして派生音の C♯をよく使います。演奏のしかたについては経験者に教えてもらうのが確実ですが、近くに教室がない方は OAIM（Online Academy of Irish Music）および irishconcertinalessons.com が提供する有料動画レッスン・ビデオ・サービスをおすすめします。無料の動画もありますので、一度ご覧になってみてください。

コンサーティーナの管理について

コンサーティーナは多くの部品で出来ているため、繊細で壊れやすい楽器です。以下のことに注意しましょう。

・机などに楽器を置くときは、ボタンのある方を下にして置かないでください。
・移動時など演奏していないときは、付属のハードケースに入れてください。
・ケースに収納する際には、蛇腹を完全に閉じてください。
・ケースは、ボタンのある面を下にしたり上下をひっくりかえしたりしないように置いてください。
・しばらく弾いていないとボタンが固まりますので、演奏前にすべてのボタンを一度押してほぐしてください。
・ボタンを押さずに蛇腹を強く押し引きしないでください。蛇腹が傷んでしまいます。
・ボタンは強く押し込まないでください。ボタンが引っかかる原因になってしまいます。
・蛇腹の外側のヒダにあるホコリをときどきブラシなどで払ってください。
・ホコリや動物の毛が空中を漂うような場所で演奏するとリードに異物が入りこみますので避けましょう。
・タバコのヤニもリードにはよくありません。
・蛇腹や木部のカバーはエタノール(アルコール)で拭かないようにしましょう。
・リード・フレームはワックスで接着していますので、極端な高温では融けてしまいます。
　特に夏の車内には楽器を放置しないようにしましょう。
・蛇腹にカビが発生するのを防ぐため、高湿は避けましょう。

不具合が起きたときは

Wren コンサーティーナは素材の品質や構造的な原因で不具合が発生しやすい楽器です。そのたびに修理に出していては練習が止まってしまいますし、お金もかかります。それに不具合は一時的に改善しても再び出てしまいます。

ストレスなく練習を続けてゆくには、楽器のしくみについて学び、不具合を予防し、不具合が発生しても修理ができるようになることが大事です。コンサーティーナを買ったからには、覚悟を決めて修理を学びましょう。

【カバーの開け方と締め方】

Wren コンサーティーナのカバーは、家庭にあるプラス・ドライバーで簡単に開けることができます。

ボタンをつぶさないために太ももの上にボタンのある面を置いて、開けたいほうのカバーを真上に向けて作業しましょう。
ドライバーでネジを緩めていきます。この際は、ネジ頭に対してまっすぐドライバーを当てて、左回転させてください。ドライバーの大きさが合っていないとネジ頭を削ってしまいますから、大きさの合うドライバーを使いましょう。

ある程度ドライバーで回したら、指でも回して引き抜くことができます。1 本のネジをはずしたら、その対角にあるネジをはずします。このようにして順番に 6 本のネジをはずしましょう。ネジは完全に引き抜いて、元々の場所に戻せるように区別して置いてください。

カバーを開けるときは、アクション・ボックスと蛇腹・フレーム両方に指をかけて、アクション・ボックスを引き抜いてください。このときに中にあるリード・パンが抜け落ちてしまわないように、アクション・ボックスの下から指をかけておきましょう。

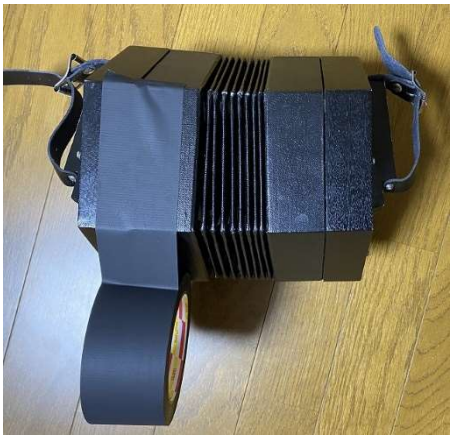
アクション・ボックスが抜けたら、次にカバーをはずします。購入時は気密テープで閉じられていますが、動作異常を調整するにはここを開けなくてはいけませんので、思い切って引き剥がしてください。
おおよそ剥がせたら、テープの残留がないようにノミやカッターでテープを綺麗にこそげ取りましょう。テープが取れたらカバーは引き抜いてはずせますので、ひっくり返して机の上に置いて、リードや動作部分の作業をしましょう。

組み立ては反対の手順です。気密テープでカバーを留めます。テープは購入時に貼ってあったようなクッション性のあるものでなくても結構です。剥がしやすいマスキング・テープがおすすめです。私が使ったのはダイヤテックス「ツヤ消しテープ 影武者(黒色)」で、剥がした跡やベトベトが残らず色も楽器となじむため良いのですが、幅が 50mm あるため、カッターで幅 10mm くらいに切らなくてはいけません。

アクション・ボックスを蛇腹・フレームに重ねたら、先ほどと同じく対角にあるネジを順に締めてください。ネジはきつく締めすぎると木部やネジ頭を損傷するので、ほどほどに締めましょう。ネジ頭が壊れたら、ホームセンターの 3mmx40mm のタッピングビスで交換できます。壊れたネジを持って行き同じものを探してみてください。

【気密性を高める】

蛇腹で空気を送るときにどこかで空気漏れがあると、気圧を保つことができず良い音が鳴りません。また空気の消耗が激しくなり、蛇腹をたくさんストロークしなくてはならず演奏が大変です。そこで気密性を少しでも高める工夫を提案します。



アクション・ボックスとカバーとを合わせたときのすき間をマスキング・テープでふさぎましょう。左の写真ほど太く巻かなくてもよいのですが、このようにテープで一周すると気密性が高まります。左右どちらとも行います。

また、本当はいけないのですが、ボタンを押さずに蛇腹を少しずつ閉じてみて、「シュー」という空気音が聞こえたらそこから空気が漏れていますから、場所を特定してマスキング・テープでふさいでください。
空気漏れはパッドやバルブからも起こりえます。疑わしい場合は、パッドやバルブに異常がないか、点検をしてみてください。

【異常な音がする】

ぼやけたような音がするときはリードにゴミが引っかかっていることが、リードに金属的な雑音が入るときはリードがリード・フレームに接触していることが主な原因です。

この問題を解決するにはリードを直接触って調整する必要があります。カバーを開ける前に一度演奏をしてみて、問題のある音を特定しましょう。つまり**「左右どちらの手の・どの列の・どのボタンで・蛇腹を押した/引いたときに」**出るのかということです。問題のあるボタンに何かで色を着けるなどしても良いでしょう。

ボタンが特定できたらアクション・ボックスを開いて、印をつけたボタンを押したときにどこのアームが動いてどこのパッドが開くのかを確認します。次に裏面のリード・パンを見て問題のあるリードを特定します。

1箇所のアームに対して2枚のリードが対応しています。**見えているほうは蛇腹を押したとき**(空気を押し出すとき)に振動し、**バルブ（プラスチックのカバー）がかかっている方は、蛇腹を引いたとき**（空気を吸い込むとき）に振動するリードが**奥に隠れています**。押すときに異音が鳴るのであれば露出しているリードを調整し、引くときに異音が鳴るのであればワックス付けしてあるリード・フレームのワックスをクラフトナイフで切ってリード・フレームを外し、ひっくり返して作業してください。外したリード・フレームを戻す際には裏表がひっくり返らないように元にもどし、ロウソクの火で加熱したマイナス・ドライバーを使ってワックスを溶かしながら隙間なくリード・フレームを接着します。

<リードの清掃> ふせんのような薄い紙を舌の下とリード・フレームとの間に挟んで、やさしくこすってください。つぎに舌とリード・フレームのすき間をまち針やクラフトナイフのような鋭いものでなぞってください。作業はリードを傷つけないように慎重におこなってください。ホコリが挟まっていた場合はこれで改善するはずです。

<リードの接触改善>　まち針でリードの舌を軽くリード・フレームに押し込んで、リード・フレームとの間で「ギィギィ」と擦れる音が鳴れば接触を起こしていますので、舌を横から軽く押して角度を変えて、リード・フレームと当たらないようにします。力をこめるとリードを損傷してしまいますので、慎重におこなってください。

なおリードの調律は専門的な道具、技術や経験が必要な作業なので、気になるほど調律が狂っているようであればアコーディオン修理店に持ち込んで修理してもらいましょう。　　※調律は当店のサポート対象ではありません。

【音が出っぱなしになる】

ボタンを押していないのに音が出っぱなしになるのには複数の原因があります。ボタンがひっかかっている場合は演奏時に気づくことができますから、次ページに進んでください。そうでないときは以下を確認してください。

(1)リード・バルブが機能していないことが考えられます。リード・パンを露出させて、問題がある音のリード・バルブを目視してください。バルブが折れている場合は、指で反対向きに反らせると改善することがあります。バルブの長さが足りない、または取れているという場合には、専門業者からバルブを求めて貼り直すか、アコーディオン修理業者に修理を依頼してください。
(2)パッドがきちんと閉じていないことが考えられます。問題がある音に対応したパッドを目視し、きちんと閉じられているか確認してください。
(3)アームの横ずれがないか目視してください。横ずれするとパッドが空気孔をきちんと閉じることができません。
(4)バネが正常に動作しているか確認ください。バネの位置を動かすだけで直る場合があります。

【押したボタンがひっかかって戻らない】

Wren はボタンを押すとボタンがカバーの中に落ち込み、それによってアームが連動します。

このときボタンの上下運動をアームの回転運動に変換しているので、アームに対するボタンの角度が変わります。

この運動を可能にするためにボタンとアームとは固定されておらず、ボタンの下の金属の輪にアームを通して、弾力のあるゴムキャップで留める構造になっています。

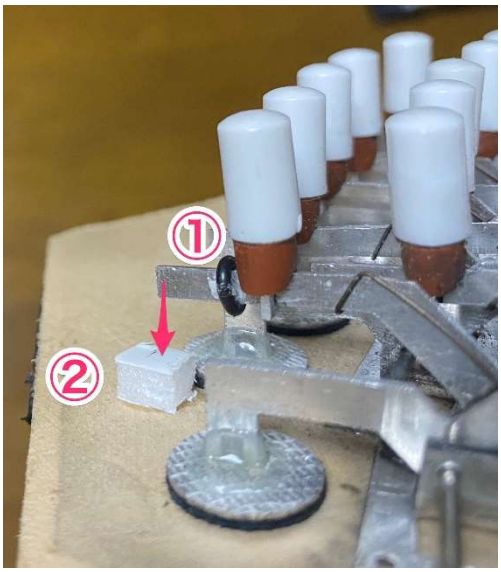
ボタンとアームを完全に固定するとボタンはアームに対する角度を変えられず、押してもカバーにひっかかってしまうためです。

しかし上記の構造ゆえに、ボタンを押すとアームに対する輪の位置が前にずれていってしまいます。するとボタン孔に対するボタンの角度が正しくないために、ボタンを押したときにカバーにひっかかってしまいます。これがボタンを押しても戻ってこない原因です。

この症状はアクション・ボックスを開いてボタンの前後位置を調整することで一時的には改善するのですが、いずれゴムキャップが緩んでしまい、簡単にボタンが引っかかりやすくなってしまいます。その場合はゴムキャップを下げて、輪の大きさを狭めてアームに通すと、改善されることがあります。

以上のような対症療法をしてもこの症状は何度も出てしまうので、根本的な改良が必要です。

私は、2 点の改善方法を提案します。



① アームに内径 2mm のオー・リングをはめ込み、横ずれ防止のストッパーを付けます。オー・リングはモノタロウにて 1 つ 20 円ほどで買うことができます。オー・リングは接着する必要はありませんが、ずれてしまうようであれば、木工用ボンドで接着してください。
ボタン交換の際には木工用ボンドは綺麗に剥がすことができます。

② アーム下にストッパーを付けることで、アームが際限なく落ちるのを予防し、ボタンを押し込めないようにします。

100 円均一で買うことができるスチロールの板を加工して、アームを受ける位置に当てて木工用ボンドで貼り付けます。高さは、ボタンを押しても 3mm ほどカバーから浮くくらいに調節しましょう。

【１つのボタンに対して複数の音が同時に鳴る】

バルブが正常に作動していない可能性が考えられます。バルブは蛇腹を押し/引きする際に、空気が一方向だけに流れるようにする「弁」として機能します。バルブが作動しないと押しても弾いてもリードが反応してしまうため、あるボタンを押した時に本来は１音だけ鳴るはずが２つの音が同時に鳴ってしまいます。以下の手順でご確認ください。

① 発生している音の音高を確認し、運指表を参考にどこのボタンに関連する音かを確認し、蛇腹を押した時/引いた時のどちらのバルブに問題があるかを特定してください。

② カバーを開けてボタンからアーム→リード・フレームへと目線を移し、該当するバルブを特定してください。

③ 蛇腹を引いた時に本来は鳴らないはずの音が鳴っているのであれば露出しているバルブに、蛇腹を押した時に本来は鳴らないはずの音が鳴っているのであればリードの裏側の見えないバルブに問題があります。

④ 裏側のバルブにアクセスするにはリード・フレームを取り外します。クラフトナイフなど細い刃物でリード・フレームの周りのビーズ・ワックスを切ってください。表側のバルブであればリード・フレームを取り外す必要はありません。

⑤ バルブを目視します。異物が挟まっている、折れている、リード・スロット(リードの舌が収まる溝)よりも短いなどの異常がないかを確認しましょう。異物があれば取り除き、折れていれば反対方向に折り目を軽くつけてまっすぐに直します。リード・スロットよりも短い場合は交換が必要ですのでご相談ください。

⑥ リード・フレームをリード・パンに接着します。作業した面を元に向きを間違えないように気をつけて戻してください。ビーズ・ワックスは、マイナス・ドライバーをライターで加熱して溶かしながら貼り付けるように**隙間なく閉じます**。足りないようであればネット通販で少量を購入することができます。

Wren で報告いただいた不具合はすべてこれらが原因でしたが、これ以外の不具合が発生した場合はご相談ください。最後に以下の皆様に Twitter で校正と助言でご協力いただきました。他、コンサーティーナに関してご意見やフィードバックを頂きました皆様へご協力に感謝申し上げます(順不同)。

ryo 様	@ryo_concertina	Satomi Y(智美)様	@satomy1978	にゃ様	@__nyax
くろやぎ様	@krygkn11	太陽様	@soleil_music	Gen Totani 様	@gtotani
Lev.H.R 様	@wnkaffka	Gene 様	@gene_pinefield		
ふるいど様	@Fluid0visible	加藤徹様	@katotoru1963		